



阪急電車千里線からよく見える「まもろう！憲法9条」の看板

有田 普段はどんな運動を？
床島 毎春秋に、護憲政治家や作家などに来ていただいて、憲法学習会をしています。それと毎月9日に「憲法9条を守ろう」と、街頭宣伝を。今までは吹田市南部の旧市街を中心に行っていました。今は北部のニュータウンも合わせて市内2か所です。街頭でチラシを配っていますが、なかなか受け取りが悪いですが、でもめげずに(笑)やっています。「私は自民党支持だが、憲法9条は変えてはいけない」とおっしゃる方

も現れたりして、勇気づけられることもしばしばです。
有田 田口さんは千里山地域で「9条の会」を作って、地道に平和を訴えておられますね。
千里寺の参道に「まもろう！憲法9条」の大きな看板を
見える宣伝も大切
田口 千里寺の参道に「まもろう！憲法9条」の看板を立てさせていただきました。阪急電車からよく見えて好評です。千里山9条の会は2006年5月に結成されました。千里寺の住職さん、女優さん、弁護士さん、そして現市長のお父さんなど、多彩なメンバー11人が呼びかけ人になってくださいました。大江健三郎さんらの「九条の会アピール」賛同者を募り、千里山9条の会のニュースをお届けしています。現在賛同者は300人を越え、ニュースは第5号まで発行しました。5月26日には関西大学9条の会と共催で、アメリカからオーババー博士をお呼びし、大きなつどいを開催したところです。
床島 私たちも「千里山9条の会」が、素晴らしい講演会を企画しているの聞き、会員に案内を送り、ニュースで紹介しました。党派の違いを超えて、「憲法を守ろう」という運動が広がればいいですね。

広島、長崎の原爆投下はしょうがなかった。現役防衛相のとんでもない発言。数10万人もの原爆犠牲者、今なお苦しむ被爆者のことを思えば、「しょうがなかった」などと言えるはずはありません。現在の安倍政権がいかにアメリカべったりであるか、がよくわかります。原爆投下から62年。平和憲法の値打ちを大いに語り合いました。

SUITA
9条まもる
座談会

床島 央明さん
(憲法を守り暮らしに生かす会代表世話人)
田口 清子さん
(千里山9条の会世話人)
有田 八郎さん
(吹田市職員労働組合執行委員長代行)



戦争だけは絶対にアカン!

で憲法9条を生かす太い流れを

有田 宙に浮いた5千万件の年金問題や、政治と金をめぐる疑惑の渦中にいた松岡農水相の自殺など、安倍政権は大揺れの状態ですが、一方で国会では、憲法を変えてしまおうとする国民投票法案や教育三法、イラクへの自衛隊派兵特措法の2年延長などがどんだん強行採決されています。教育基本法に「愛国心」が盛り込まれたり、防衛庁が省になったり、「戦前と似てきたのでは？」と感じさせられる昨今ですが、こんな時こそ「草の根からの平和運動」が大勢だと思えます。床島さんは吹田で一貫して平和運動に取り組まれています。最近の状況を見て、「きな臭くなってきたな」と感じてもらえるのではないですか？

小泉・安倍内閣の「暴走」に

いてもたってもいられず

床島 小泉さんになってイラクへ自衛隊が派兵され、そして安倍さんで憲法が変えられようとしているでしょ？私は戦後一貫して社会党の運動を支えてきましたから、特に感じるのですが、昔は自民党に対抗して、平和・護憲の一大勢力として社会党があり、労働組合では総評があった。曲がりなりにも「戦争へのブレーキ役」

がいたわけですね。しかし今は社会党も総評もなくなくなり、民主党や連合では小泉・安倍内閣の「暴走」を止めることができなかつた。3年前にそんな危機感を持った有志が集まって、「憲法を守り暮らしに生かす会」を結成しました。吹田の社民党や新社会党、そして連合に不満を持っている労働組合のグループなど百数十人が集まって、運動を開始しました。今の政治状況を見て「いてもたってもいられない」という自然発生的なスタートでしたね。



床島 央明さん

“自民党支持だけれど9条は変えてはダメ”という人もいて勇気づけられます

有田 吹田は昔から共産党、社会党をはじめ、主義主張の違いを乗り越えて、一致点で運動を進めるという「統一の歴史」がありますね。メーデーも地区労が主催して幅広く行っています。憲法9条問題は、以前に増して幅広い共同が必要ですね。千里山だけでなく、ニュータウンや山田、第3中学校区など、次々と「9条の会」が結成されています。私は「山田9条の会」に参加させてもらっています。以前に「地元の戦争体験者の話を聞こう」という学習会がありました。兵隊で戦地へ行かれた体験談では、単に戦争の被害者だけではなく、極限状況の中の生と死の話で、参加者一同非常に感銘を受けました。みなさんが「やっぱり戦争だけは絶対にやつたらアカンな」と感想を口にされていたのが印象的でした。
床島 地域から草の根平和運動が盛り上がって、各地で素晴らしい取り組みが行われていますが、一

方、国会では「雪崩を打って」法律が通過しています。安倍首相を見てみると、「何をそんなに急ぐのか？」と感じます。祖父でA級戦犯の岸さんが1960年に日米安保の改定を強行した時には、曲がりなりにも「アメリカの占領体制からの脱却」という「理由」を口にしていた。今は「戦後レジーム(体制)からの脱却」と「言葉だけ」は似たようなことを言いますが、実質は「戦前の国家体制に逆戻りさせる」狙いですね。岸さんの時代は、国民の中に「もう戦争は許さない」という平和運動への使命感のようなものがありました。

※注 オーババー博士

アメリカ・オハイオ大学名誉教授。湾岸戦争が終結した1991年に「第9条の会・アメリカ」を設立。日本国憲法第9条の大切さを世界の人々に訴える活動をおこなっている。「この青い星の危機を救うのは地球憲法第9条です」と提唱。



田口 清子さん